

# 高砂市文化会館のあり方 (案)

令和8年3月  
高砂市

# 高砂市文化会館のあり方

## 目次

第1章	はじめに	1
1	背景と目的	
2	社会情勢の変化と対応	
第2章	現状と課題	5
1	高砂市文化会館（本館）	
2	高砂市文化会館（東館）	
3	運営状況	
第3章	利用状況等	8
1	施設利用状況の推移と実績	
第4章	審議会、文化関係団体等	12
1	審議会、文化関係団体の主な意見	
2	文化連盟加盟団体へのアンケート	
3	「第2次文化振興基本方針」策定時の市民アンケート	
第5章	基本的事項	16
1	目的・必要性の考え方	
2	規模、機能の考え方	
3	代替施設・代替施策の考え方	
4	建設候補地の考え方	
5	事業手法・財源低減方策の考え方	
第6章	基本構想策定に向けて	20
1	方向性	
2	施設整備にあたっての考え方	
3	基本構想策定のスケジュール	

## 第1章 はじめに

### 1 背景と目的

高砂市では、「文化振興によるまちづくり」を基本理念とし、市民一人ひとりが豊かさを実感できる持続可能なまちの実現をめざしています。そうした中で文化活動の拠点である「高砂市文化会館」は、文化教養の向上及び文化交流の促進を図り、市民福祉の増進への寄与を目的に設置され、これまで音楽をはじめとした舞台芸術の鑑賞、地元の活動団体や学校等による音楽や演劇、展示等の発表、文化芸術活動や交流の場として、また市民と文化芸術をつなぐ中心的役割を担う施設として長年にわたり多くの市民に親しまれてきました。

しかし、現在の文化会館は、本館については、昭和44(1969)年に開館してから57年、東館については、昭和59(1984)年に開館してから42年が経過し、いずれの施設も昭和後期に整備された施設であり、構造や設備の経年劣化や老朽化に加え、バリアフリーや多様化する市民のニーズに対応出来ておらず、音響や照明などの機能面でも専門性の高い活動が困難な状況となるなど多くの課題を抱えています。また、文化会館が整備されてから現在まで、人口減少、少子高齢化、情報関連技術の進展、ライフサイクルの多様化などにより、文化を取り巻く環境も大きく変化しております。

これらの状況を踏まえ、本市では、将来の文化会館のあり方について、令和3(2021)年3月に策定した「高砂市公共施設全体最適化計画」による、延床面積の30%縮減を目標とした施設整備への取組と「高砂市文化振興条例」および「第2次高砂市文化振興基本方針」に基づき、単なる貸館施設でなく、市民の創造的な活動と交流の拠点として、また多様な文化資源を未来につなぐ文化拠点として、基本的事項を整理し、将来にわたって持続可能な施設となるよう今後のあり方を再検討し、考え方をまとめました。

また、令和7年度に現文化会館の敷地を高砂市民病院の移転候補地としたことから、現地での改修や建替えでなく、新文化会館としての移転建替えの考え方も併せてまとめています。

この考え方を基礎として、市民のご意見を聞きながら基本構想の策定を進めます。

## 2 社会情勢の変化と対応

※①～③は第2次高砂市文化振興基本方針に掲げる変化

### ①人口減少、少子高齢化の進展

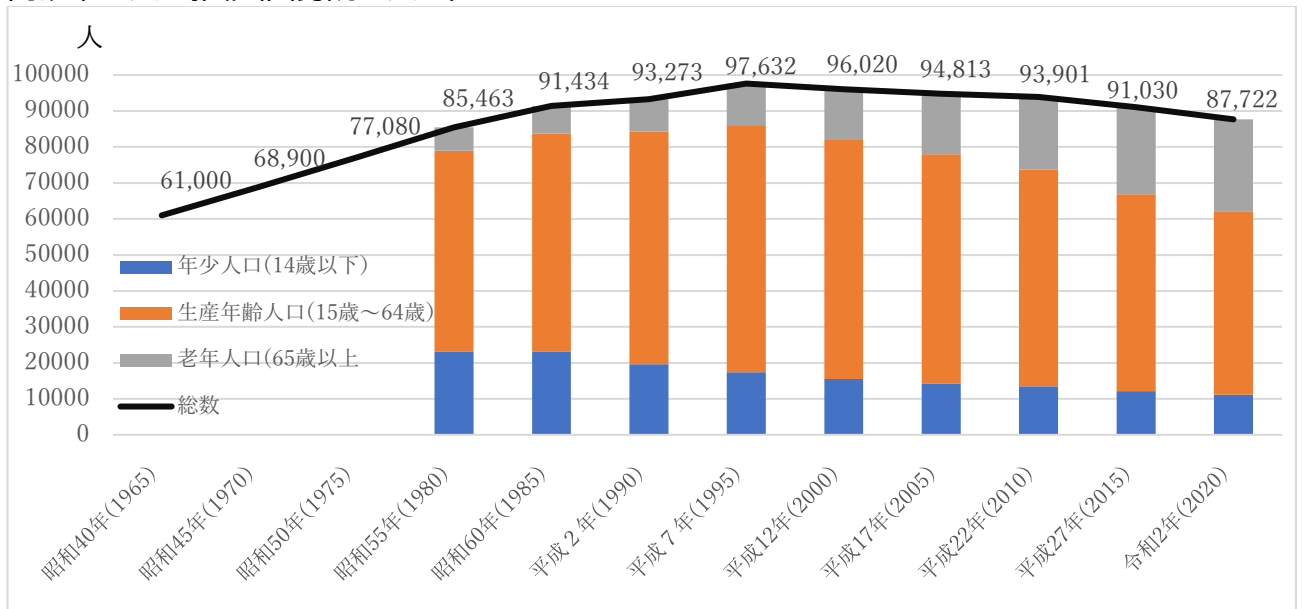
本市の人口は、文化会館建設当時の右肩上がりの状況から、1995(平成7)年をピークに減少し続けており、その傾向は今後も続くと推計されています。

生産年齢人口数及び年少人口数も減少し、今後ますます高齢者の比率が高くなると見込まれています。

また、出生数も平成初頭は1,000人を超えていましたが、平成20年頃は800人程度となり、令和5年には500人を下回っている状況です。

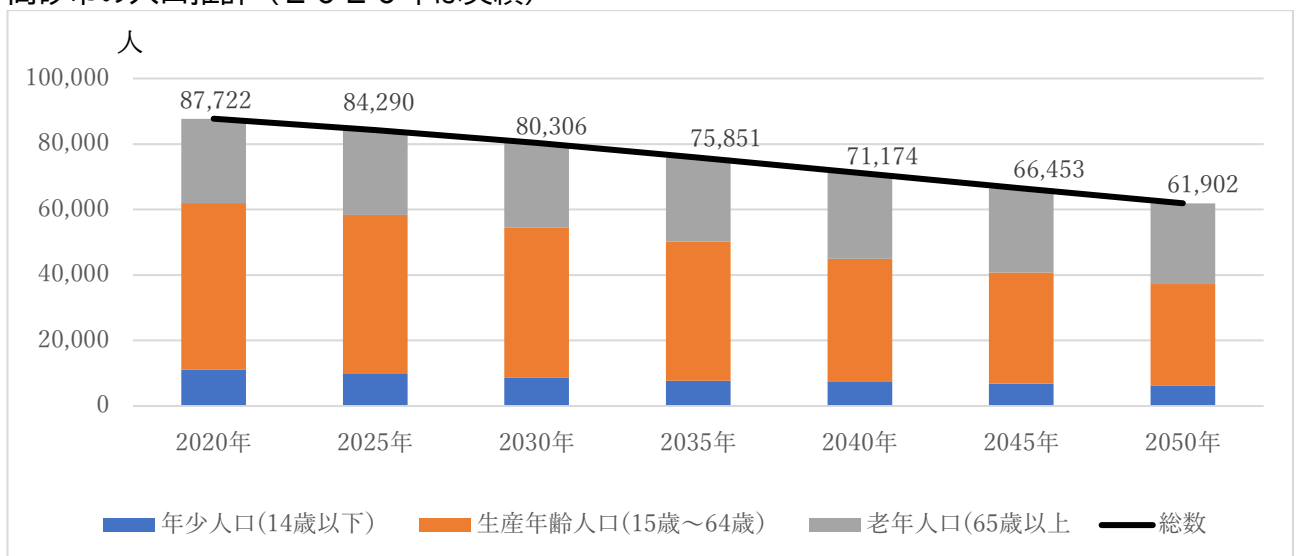
このため、地域文化の継承や担い手不足も課題となることが予想されるとともに、文化会館事業の主催者や来館者等の需要の減少・市場の縮小も考えられます。

高砂市の人口推移(国勢調査人口)



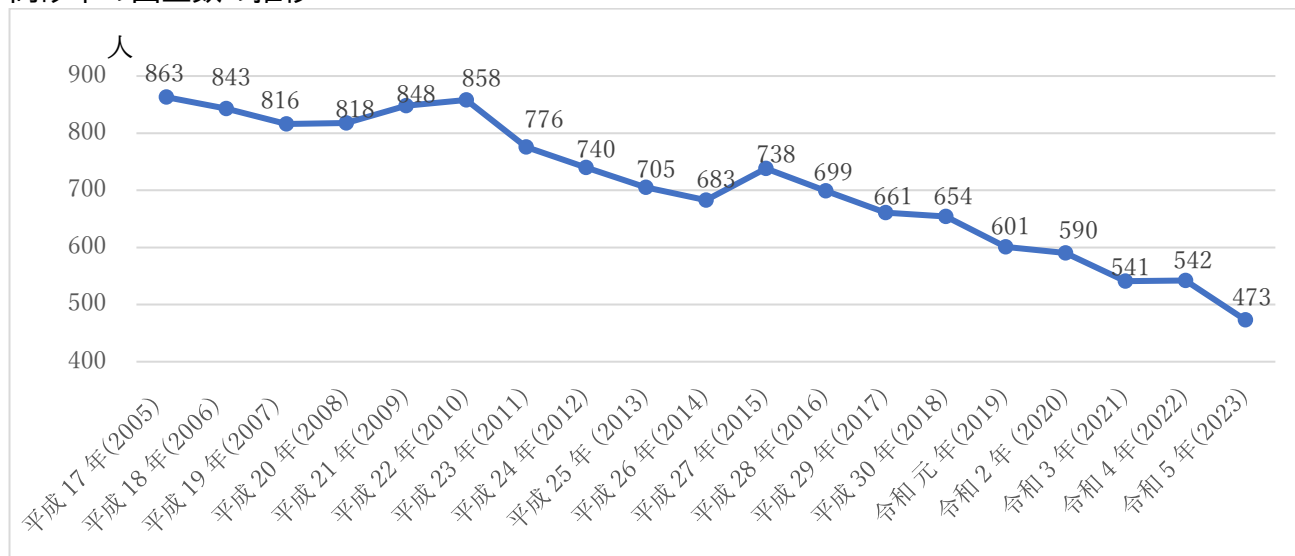
高砂市統計書

高砂市の人口推計(2020年は実績)



国立社会保障・人口問題研究所資料(令和2年国勢調査ベース)より作成

## 高砂市の出生数の推移



高砂市統計書

### ②情報通信技術の発達とライフスタイルの多様化

インターネットやスマートフォンなどが急速に普及したことにより、従来の文化芸術活動に加え、イラスト作品の専門サイトへの投稿や、SNSによる画像や動画作品の投稿、オンラインでの公募展など新たな手法による文化芸術活動が展開されています。

これらにより、様々なジャンルの文化芸術の体験や表現が可能になり、新たな文化芸術活動への取組が広がっている一方で、情報の氾濫や実体験機会の減少、情報格差等の課題が生じています。

また、デジタル技術の更なる進歩も予想されることから、若者世代にも望まれるニーズや手段にも対応できる施設環境も検討する必要があります。

### ③新型コロナウイルス感染症の影響

2020(令和2)年からは、新型コロナウイルス感染拡大により多くの活動の自粛が余儀なくされました。これにより文化芸術活動の中止や延期、文化施設の休館や利用制限などにより鑑賞や創作等の機会が大きく失われ、文化芸術の発信や享受に大きな影響を与えました。一方、リアルで鑑賞することの楽しさも再認識されています。

コロナ禍前の状態に戻るのではなく、働き方や日々の生活もデジタル技術の進展と相まって変化しており、新たな価値観を踏まえた施設整備や運用手法を検討する必要があります。

#### ④その他

高砂市民病院の移転先として、現文化会館敷地が候補地として選定されたことにより、早急に、新たな文化会館の基本構想を策定する必要があります。また、市民病院の建設時期によっては、施設の無い期間が生じる可能性があることから、文化活動の継承と市民サービスの継続性の観点からその期間の代替方策を検討する必要があります。

文化会館に求められるニーズは複雑化、高度化されていくなか、市域に必要な文化拠点として存続していける時代に適切にマッチした施設としなければなりません。

国際的な影響等による建築資材費の高騰や建設業界の人材不足、働き方改革による時間外規制などによる人件費増などに伴い、建築価格も大幅に上昇しています。

一方、市政運営においても、今後さらなる社会保障費の増大や文化会館も含めた公共施設の更新の集中、インフラの整備・更新が予想され、適切な事業計画や財政運営を行う必要があります。

文化会館の移転建替えにあたっては、これらを踏まえ、市政運営や財政に多額の影響を与えないよう実現可能な基本構想を策定する必要があります。

## 第2章 現状と課題

### 1 高砂市文化会館（本館）

竣工年	昭和44(1969)年6月
規模	延床面積4,666.32㎡
構造	鉄筋コンクリート造 地上4階建
機能	大ホール(1,066人)・展示集会室(120人)・楽屋4室・事務所・食堂
概要	<p>市内で唯一の劇場・音楽堂の機能を備えた1,000人規模の大ホールを有しており、市の大規模催事の会場や文化芸術活動をはじめ、吹奏楽コンテスト、コンサートや各種団体の様々な活動拠点となっています。展示集会室は防音機能を有し、常設のピアノと壁一面の鏡を設置、音楽やダンス活動に利用されています。</p>
課題	<p>建設から57年が経過し、施設の老朽化が進んでいます。</p> <p>平成11(1999)年に耐震工事を実施、また、平成12(2000)年に大ホールの舞台吊物、座席や、エスプラナード(建物に囲われた遊歩道的広場:2階部分)の大規模改修などを行っていますが、エレベーターの設置やバリアフリー化が施されていないなど高齢者や障がいのある方などへの利便性の低下、現建物上の問題に起因する舞台面積の狭小等による公演の制限や、照明、音響、舞台機能の陳腐化など、現代的な公演や創作活動に対応しづらい設備となっています。</p> <p>また、大ホールを利用する団体の減少に伴う利用数や観客数が減少し、600人以上規模の利用が減っています。</p>

## 2 高砂市文化会館（東館：旧文化保健センター）

竣工年	昭和59(1984)年3月
規模	延床面積3,927.80㎡
構造	鉄筋コンクリート造 地上3階建
機能	中ホール(402人)・多目的室6室・和室2室・会議室3室・料理講習室
概要	<p>可動式座席で多目的に使用可能な中ホールや多目的室・和室・会議室・料理講習室を有しており、隣接する文化会館(本館)の補完的役割を果たし、主として市の催事や、指定管理者の自主事業(各文化講座)、各種団体の様々な活動で利用されています。また、1階に高砂市保護司会(更生保護サポートセンター)が入居しています。</p>
変遷	<p>当該施設は、市民福祉の増進を目的とした「高砂市福祉保健センター」として昭和59(1984)年に建設され、文化会館の補完的役割を担う中ホールや、1階には市の保健衛生に関する事務を行う保健センター(健康増進課)、2階には高砂市社会福祉協議会の事務所が設置されていました。</p> <p>平成27(2015)年3月の高砂市社会福祉協議会の事務所移転に伴い改修工事を実施し、平成28(2016)年度からは「高砂市文化保健センター」として施設を運用しました。</p> <p>令和3(2021)年10月の市役所本庁舎の完成により、健康増進課が本庁舎に移転しました。また、令和5(2023)年1月に健診等の保健センター機能を本庁舎へ移転することに伴い、建設時期が異なる二つの施設を令和5(2023)年度からは「高砂市文化会館(本館・東館)」として一体運営を行っています。</p>
課題	<p>文化会館(東館)は、昭和59(1984)年に「高砂市福祉保健センター」として建設されてから42年が経過していますが、昭和56(1981)年6月1日以降の新耐震基準が適用されているため、耐震基準は満たしており、建物の構造上としての問題はありません。</p> <p>しかしながら、当該施設は福祉保健センターとして建設されたため、中ホールを除いて、文化芸術活動を行うために設計された建物でなく、利用者の要求水準に満たない課題が多く見受けられます。</p> <p>また、本館とは建物が分かれており、東館に管理事務所がないため、常駐スタッフが不在という施設管理・防犯面での課題を抱えるなどにより稼働率が低い状況となっています。</p>

参考 高砂市施設カルテ(令和7年3月現在)

施設名称	文化会館			
所在地	高砂町朝日町1丁目2番1号			
用途地域	第2種住居地域	設置年月	昭和44年6月	
敷地面積	16,105.63 m <sup>2</sup>	延床面積	8,594.12 m <sup>2</sup>	
運営形態	指定管理	取得価格	1,229,205,769円	
運営時間	9:00~22:00			
防災拠点等指定	指定避難施設			
バリアフリー	スロープ、トイレ、自動ドア、点字ブロック、手摺			
再生エネルギー	無			

### 3 運営状況

高砂市では、文化会館の管理運営について、民間事業者等の専門性や創意工夫を活かすことにより、市民サービスの向上と経費の削減を図り、効率的かつ効果的に設置目的を達成することを目的に平成18(2006)年度から指定管理者制度を導入しています。

制度導入当初から、民間ならではの発想やノウハウの活用により、自主事業による文化教室の充実や、開館日を増やす取組など、多様な市民ニーズに対応した管理運営を行っています。一方、多様な情報発信、各種団体等への支援や地域への文化芸術浸透などの強化が望まれています。

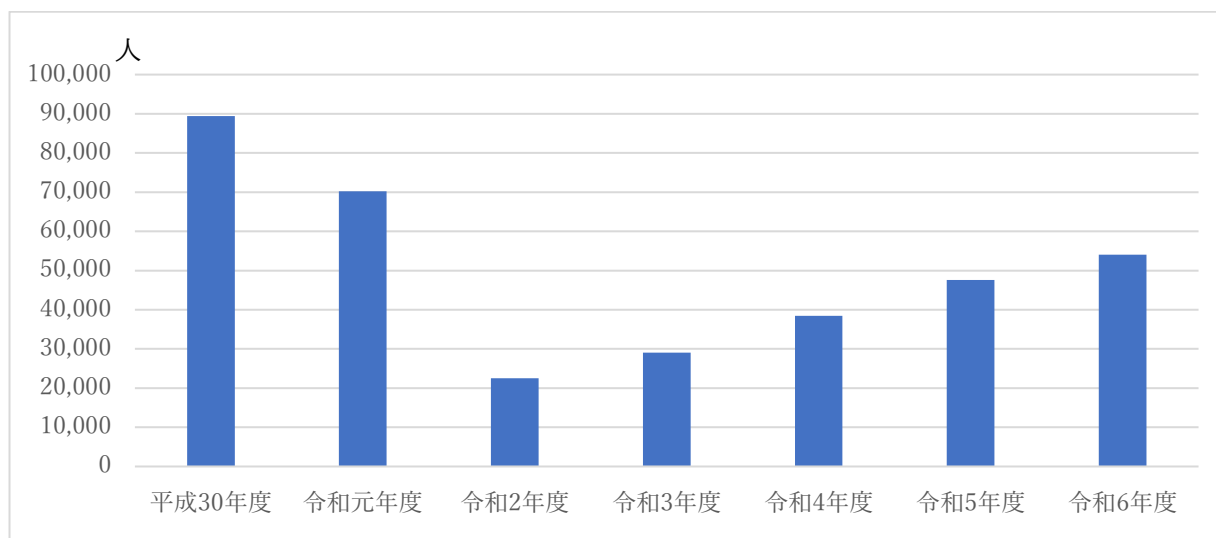
### 第3章 利用状況等

#### 1 施設利用状況の推移と実績

##### ■文化会館（本館）

単位：人

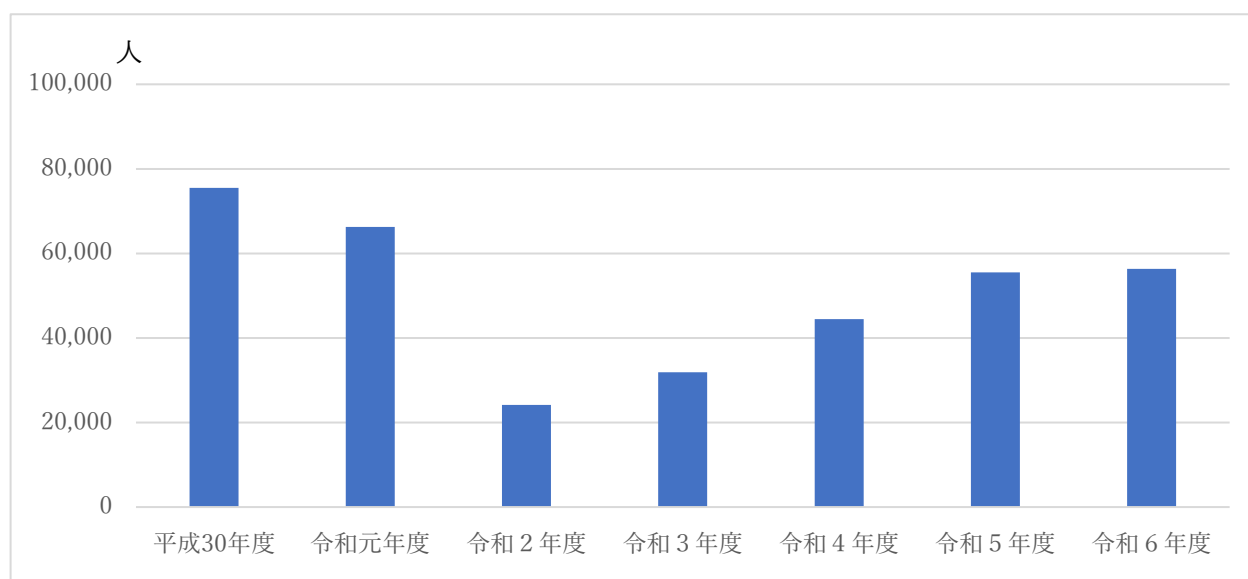
年度	平成30年 (2018)	平成元年 (2019)	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)
人数	89,421	70,226	22,523	29,065	38,461	47,628	54,028



##### ■文化会館（東館）

単位：人

年度	平成30年 (2018)	平成元年 (2019)	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)
人数	75,473	66,258	24,145	31,909	44,456	55,496	56,310



## ■文化会館の主要な施設の利用状況

	平成30(2018)年度				令和6(2024)年度			
	件数	人数	平均	稼働率	件数	人数	平均	稼働率
大ホール	123件	55,988人	455人	27.3%	107件	37,307人	348人	23.8%
中ホール	181件	35,122人	194人	41.9%	155件	25,184人	162人	33.5%
展示集会室	416件	20,997人	50人	54.2%	355件	12,826人	36人	45.3%
多目的室1	200件	10,645人	53人	31.4%	263件	6,553人	24人	34.9%
多目的室2	301件	8,586人	28人	41.1%	255件	4,084人	16人	33.4%
和室1	223件	6,128人	27人	28.8%	255件	4,178人	16人	30.8%
(本館計)	667件	89,421人	—	36.7%	570件	54,028人	—	30.6%
(東館計)	1,867件	75,473人	—	27.8%	2,260件	56,310人	—	24.0%

## ■考察

平成30(2018)年度と令和6(2024)年度の施設利用状況を比較してみると、大ホール、中ホール、展示集会室、多目的室2について、利用件数、利用人数、稼働率が減少しています。

一方、多目的室1、和室1は利用件数、稼働率は上昇しています。

■大ホールの利用実績（令和6年度）

単位：人

	事業名	入場者数	主催
1	文化まつり事業「高砂市吹奏楽団 第41回定期演奏会」	600	文化団体
2	文化まつり事業「高砂民舞発表会」	360	文化団体
3	文化まつり事業 高砂市民音楽祭	800	文化団体
4	文化まつり事業第17回 21世紀輝け TAKASAGO～時空を超えて	300	文化団体
5	文化祭	600	学校
6	第41回青春チャリティコンサート	500	学校
7	吹奏楽の練習	480	学校
8	芸術鑑賞会	580	学校
9	課題研究発表会	600	学校
10	令和6年度高砂市功労・善行者表彰式リハーサル	200	市
11	令和6年度高砂市功労・善行者表彰式	900	市
12	教職員全体研修	500	市
13	ふれあい文化の祭典ひょうご民俗芸能祭in高砂市	500	市
14	70周年コンサート	1,200	市
15	高砂市高齢者大学芸能発表会	550	市
16	第48回兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門決勝	400	市
17	令和6年度高砂市明るい安全安心まちづくり市民大会	300	市
18	第28回高砂市人権フェスティバル	570	市
19	市制70周年記念事業「おかあさんといっしょ」	2,000	市
20	令和7年消防出初式	500	市
21	令和7年はたちのつどい	600	市
22	第19回高砂市健康増進フォーラム	400	市
23	ほいけんた&坂本冬休み 爆笑!ものまねライブ2024in高砂	420	指定管理
24	N響メンバーによるゲートウェイ・ゾリステン2024	375	指定管理
25	よしもとお笑いライブin高砂	1,000	指定管理
26	文化会館サマーフェス(全館利用)	500	指定管理
27	宝くじ文化公演コロケ with ものまね芸人 爆笑!スペシャルライブ	729	指定管理
28	洋七×そえんじコラボライブ2024in高砂	600	指定管理
29	高砂寄席「米朝一門会」	562	指定管理
30	DRUM TAO2025「FUTURE」	405	指定管理

■中ホールの利用実績（令和6年度）

単位：人

	事業名	入場者数	主催
1	文化まつり事業 葬会 銭太鼓芸能発表会	350	文化団体
2	文化まつり事業「第47回高砂市美術協会展」作品受付	130	文化団体
3	文化まつり事業「第47回高砂市美術協会展」	360	文化団体
4	文化まつり事業「第7回村田七段将棋大会」	56	文化団体
5	文化まつり事業「高砂市いけばな展」	550	文化団体
6	文化まつり事業「第53回邦楽演奏会」	50	文化団体
7	芸術鑑賞会	100	学校
8	教育課程説明会	120	学校
9	松陽祭	140	学校
10	高砂市民生委員・児童委員協議会 令和6年度総会	175	市
11	高砂市連合自治会・総会	150	市
12	高砂市人権教育協議会総会	100	市
13	危険物安全大会	120	市
14	令和6年度東播磨音楽部会総会並びに研修会	100	市
15	令和6年度高砂市功労・善行者表彰式 リハーサル	100	市
16	令和6年度高砂市功労・善行者表彰式	400	市
17	令和6年度高砂市学校保健会総会	150	市
18	令和6年度東播磨音楽部会 夏季研修会	100	市
19	令和6年度兵庫県小学校教育研究会生活科・総合的な学習部会 夏季研修会	230	市
20	健康教育 講演会	145	市
21	教職員全体研修	100	市
22	市人協校区人権全体研修会	90	市
23	高砂市小学校夏休み理科・生活科作品展	1,492	市
24	健康大学	440	市
25	高砂市民生委員・児童委員協議会 令和6年度研修会	210	市
26	高齢者ドライバー講習会	200	市
27	親子で楽しむクラシックコンサート	140	市
28	令和7年高砂市新春交礼会	200	市
29	令和7年消防出初式	100	市
30	令和7年はたちのつどい	100	市
31	高砂市民生委員・児童委員協議会 令和6年度児童虐待防止研修会	200	市
32	高砂市美術展 2025	200	市
33	第32回高砂市教育美術展	2,500	市
34	令和6年度高砂市体育賞表彰式	150	市
35	第19回高砂市健康増進フォーラム	100	市
36	第25回高砂観月能(1部)	800	指定管理
37	シネマ高砂「高野豆腐店の春」	90	指定管理
38	シネマ高砂「オレンジランプ」	114	指定管理

## 第4章 審議会、文化関係団体等

### 1 審議会、文化関係団体の主な意見

#### (令和7年6月現在の「文化会館のあり方(案)」について)

文化振興審議会での主な意見(令和7年8月25日)

- ・今後の運営はどのようにするのか、指定管理の継続でなく、多様な運営手法を検討すべき。
- ・単なる貸館施設でなく、各団体などのご意見を聞きながら市民活動の場としていくべき。
- ・新たな施設は、使う側(プレイヤー)の立場、意見を踏まえて使い勝手を考えてほしい。
- ・施設面積30%減を既定とするのではなく、必要な規模、機能を考えてほしい。
- ・想定スケジュールを進めるにはタイトで難しいと思うが、まず方向性を定めるように。

#### ※参考

高砂市文化振興審議会

高砂市文化振興条例第5条第5項

文化連盟加盟団体の主な意見(令和7年9月18日)

- ・病院の移転建替えを先行で決定、文化会館の建替えが必要となったが、予算をしっかりと確保し、施設のない状態を短くしてほしい。
- ・文化会館は必要だということを市は理解してほしい。文化をなおざりにしないで。
- ・多目的は無目的ともいわれる。使う側の視点に立った設計をお願いしたい。
- ・今後2年間で、今後50年は使うであろう新しい文化会館の方向性が決まることに留意してほしい。
- ・予算に制約があり、物価も高騰している状況ではあるが、基本構想は理想をうたうべきものとして策定し、その後、基本計画で条件を踏まえながら削っていくようにすれば。
- ・新施設には防災上の視点も必要、避難所も全体的には不足。

#### ※参考

高砂市文化連盟

昭和52年4月に設立され、高砂市内の古典芸能、合唱、吹奏楽、美術等の各種文化団体の15団体が加盟し、自らを練り、文化を育て豊かな郷土づくりを目的として活動しています。

文化連盟加盟団体の会員数推移(各年度文化連盟総会資料より)

単位:人

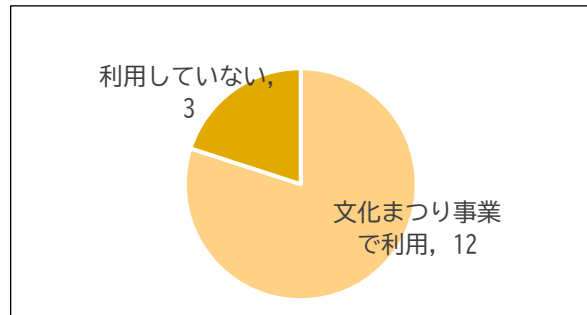
文化連盟加盟団体 15団体 ※R7年度時点	平成28 (2016年)	令和2年 (2020年)	令和7年 (2025年)
	1,612	1,351	1,041

## 2 文化連盟加盟団体へのアンケート

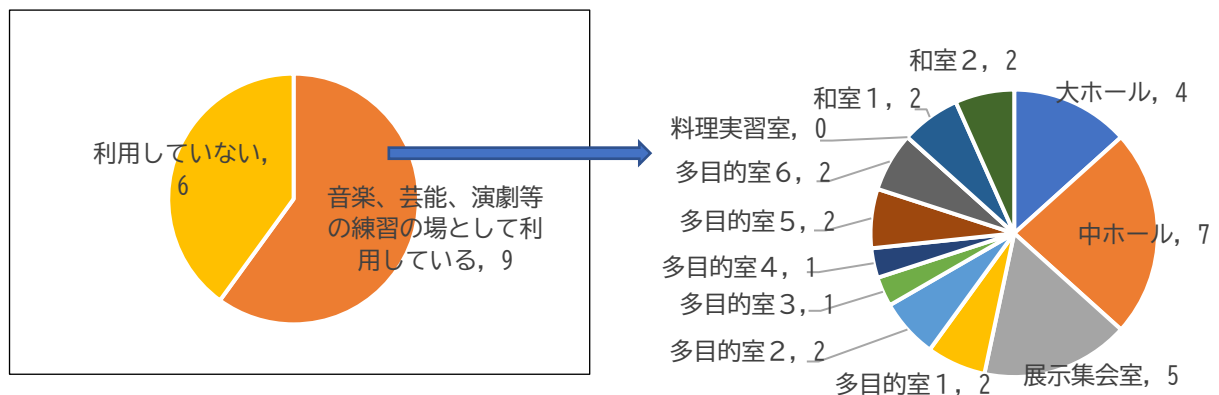
文化会館の移転建替えに向けて、現状における利用状況の確認及び団体の活動状況を把握するため、令和7年9月18日に文化連盟加盟団体(15団体)に説明を行うとともに、アンケートを行いました。(アンケート回収率100%)

### 1 現在の文化会館の利用状況

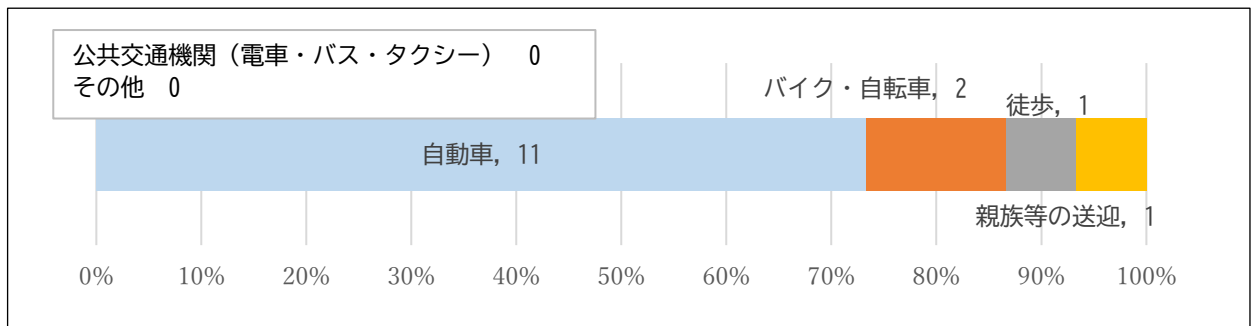
#### ① 文化まつり事業で利用していますか



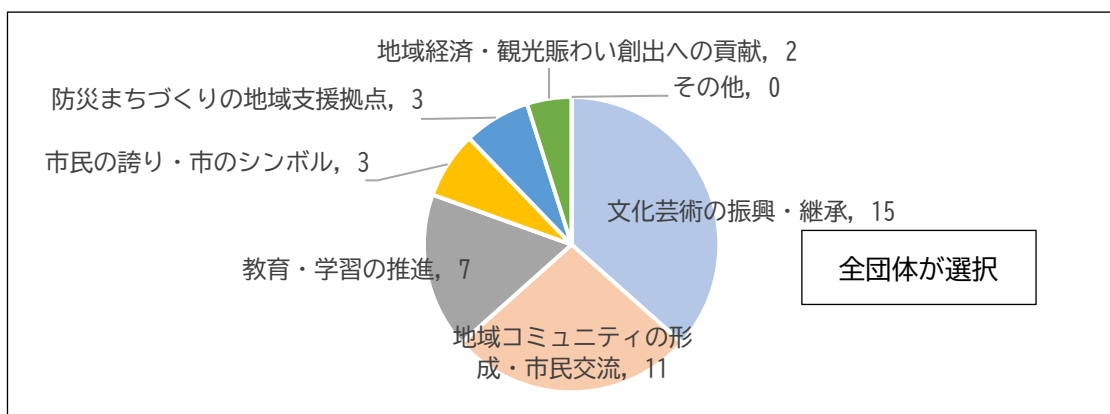
#### ② 音楽、芸能、演劇等の練習の場として利用していますか



### 2 文化会館をご利用される際の交通手段を教えてください



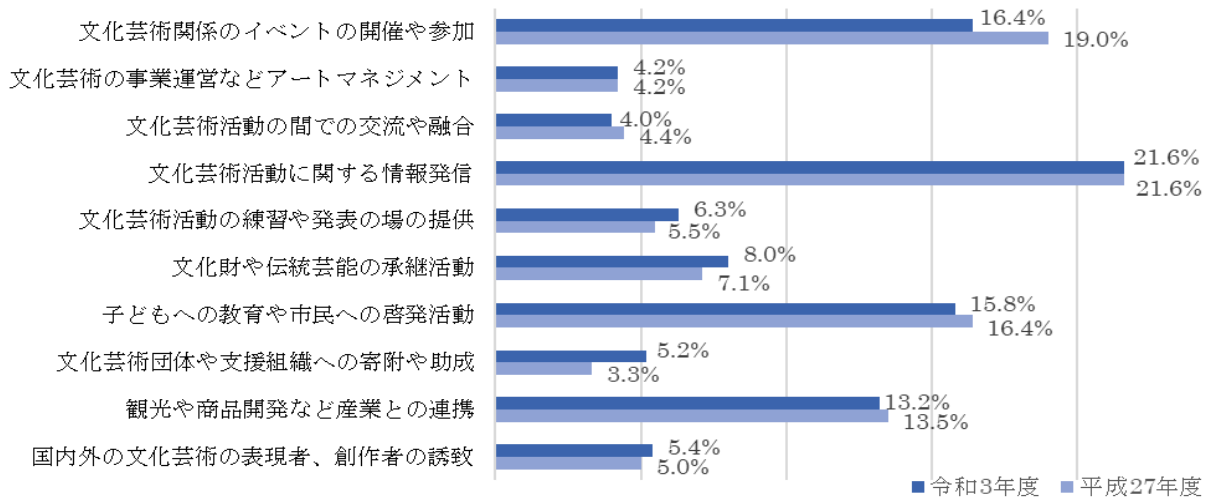
### 3 新たな文化会館に、どのような役割を期待しますか(複数回答3つまで可)



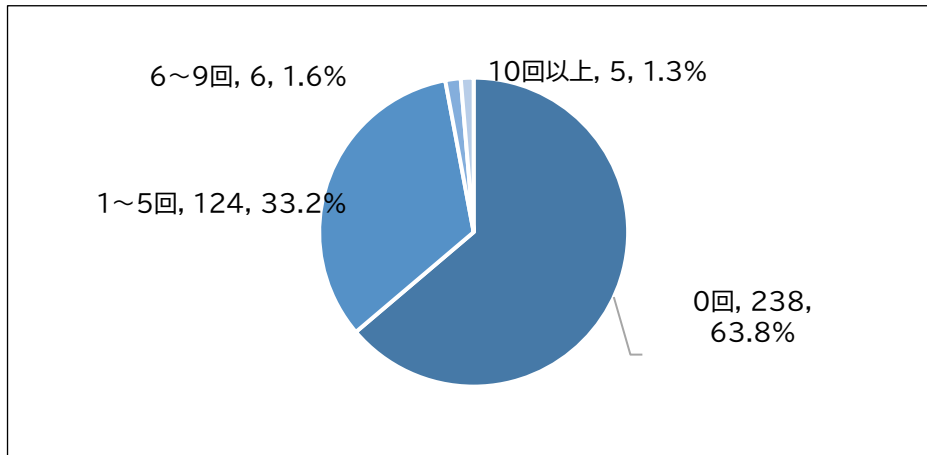
### 3 「第2次文化振興基本方針」策定時（令和4年3月）の市民アンケート

（※「高砂市文化施策に関するアンケート」調査より抜粋）

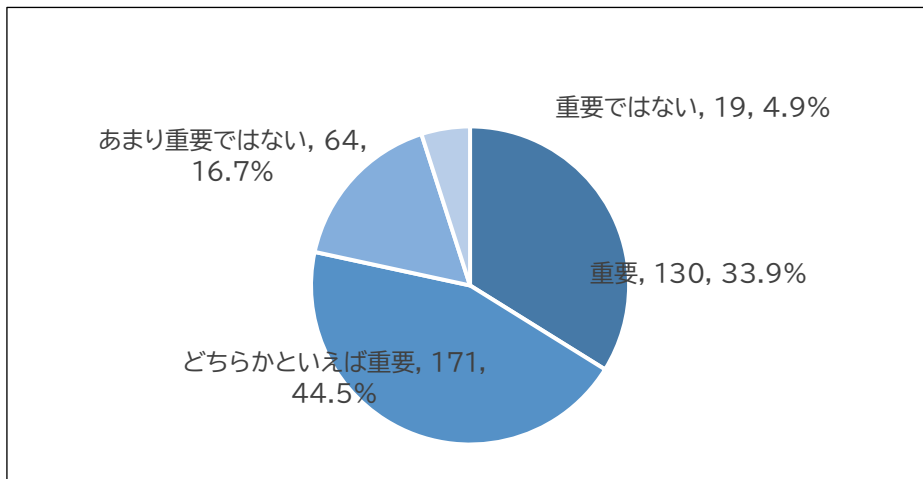
#### 《文化活動の活性のため必要なこと》



#### 《文化会館（大ホール・中ホール）の過去3年間の利用回数》



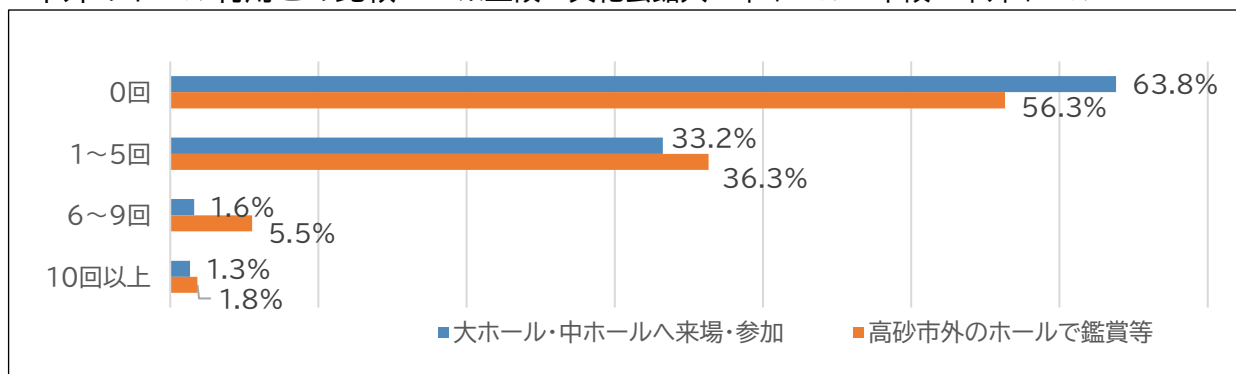
#### 《展示スペースやホールの重要性》



《文化施設の利用促進のための取組》

「文化会館」「文化保健センター」 を利用しやすくなるサービス	予約状況などの情報の公開	123 件	15.9%
	催し物の情報提供やPR	276 件	35.7%
	インターネットでの申請手続き等	108 件	14.0%
	行事運営や演出等への助言	10 件	1.3%
	ポスターやチラシの設置	111 件	14.3%
	チケットの預かり販売	29 件	3.7%
	スタッフの能力向上	17 件	2.2%
	休憩場所の充実	75 件	9.7%
	その他	25 件	3.2%
	計	774 件	100%

《市外のホール利用との比較》 ※上段：文化会館大・中ホール 下段：市外ホール



※「高砂市文化施策に関するアンケート」調査

調査期間：令和3年12月27日～令和4年2月1日

調査対象：18歳以上の高砂市民から無作為抽出した1,000人

有効回答：390件（回答率39%）

## 第5章 基本的事項

### 1 目的、必要性の考え方

原則として、現文化会館の設置目的は継続します。

現文化会館の設置目的（高砂市文化会館条例（昭和44年）第1条）  
市民の文化教養の向上及び文化交流の促進を図り、もって市民の福祉の増進に寄与するため、高砂市文化会館を設置する。

#### 文化会館の必要性

文化芸術の振興に寄与する施設を根幹として、時代とともに役割は変化していく必要がありますが、単なる「イベント会場」「カルチャー教室」「地域の晴れの場の会場」としての利用だけではなく、市民の多様な文化芸術活動ニーズに応じた文化会館を整備する必要性が生じるものと考えています。

具体的な考え方として、敷地規模や場所等との関係を考慮しながら、以下を基本構想の基本コンセプトとして検討を進めます。

○さまざまな人が集い、笑顔が生まれる施設

○文化芸術を支える拠点として、市民の文化芸術における創造活動・発表を行う交流の場、文化を活用した若者の居場所やこどもから高齢者、障がい者など誰もが集える憩いの場を目指す。

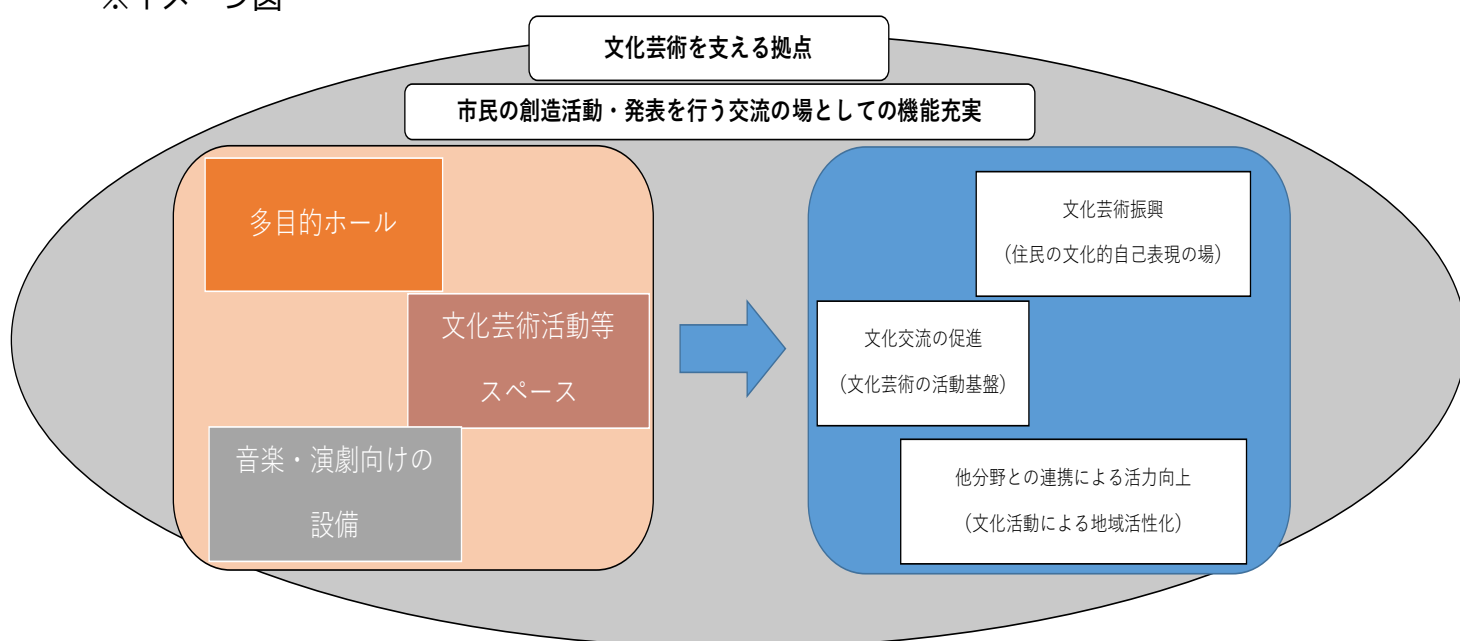
## 2 規模、機能の考え方

施設の目的、必要性を実現するために必要な規模、機能については、敷地の形状や財源を踏まえながら検討し、基本構想に反映します。

ホールの規模については、今後も人口減少が見込まれるなか、敷地面積、現状のホール利用実績等、建設コストの抑制や管理運営等を勘案し、今後、基本構想や基本計画において、「市民ニーズを考慮した座席数」となるよう検討を進めます。

また、機能については、基本構想の中で、より充実させていきたい取組が行えないか検討を進めます。

### ※イメージ図



### 参考 近隣施設の状況

#### 近隣施設（敷地・延床面積が公表されている施設）

名称	開館年	座席数(席)			敷地面積(m <sup>2</sup> )	延床面積(m <sup>2</sup> )
		ホール1	ホール2	ホール3		
高砂市文化会館	1969年	1,066	402		16,105	8,594
加古川市民会館	1973年	1,524	992	500	9,691	8,432
たつの市総合文化会館	1997年	1,106	346		22,030	8,168
加西市民会館	1979年	798	300		7,970	5,982
多可町文化会館	1990年	616			9,944	2,994
相生市文化会館	2016年	606	260	60	10,619	5,651
西脇市市民交流施設	2021年	602			20,321	4,448
加東市東条文化会館	1990年	574			18,013	3,031

### 3 代替施設・代替施策の考え方

市民病院を早期に建設する方針であることから、新文化会館の建設を速やかに進めたとしても4年程度文化会館がない空白期間が生じることが想定されます。

そのため、利用者の活動場所の確保の観点から、市内施設の有効活用の促進とともに遊休施設等の活用も検討します。

また、空白期間は、大ホールの機能がない状態となりますので、現在利用している各団体の発表の場として市内施設の利用ができない場合に、他市施設の利用への支援等について検討を進めます。

### 4 建設候補地の考え方

候補地の考え方としては、市有地を優先としつつ民地も含めながら、次のことを考慮して検討を進めます。

#### 候補地選定の視点

利便性(交通・都市機能・興行・集客のしやすさ)	安全性(防災・機能維持)
都市計画上の課題、市計画との整合	事業の実現性(効率的・効果的な運営)
周辺環境・景観(立地条件・周辺への影響)	工事のしやすさ
経済性(建設費の低減・運営時の経済効果)	その他(目的・効果)

また、建物の利用目的と規模（床面積）によっては、建築基準法上の用途分類が異なり用途地域の制限の適用も変わるため、これらのことも合わせて検討を進めます。

## 5 事業手法・財源低減方策の考え方

施設整備においては、一般的に下記の流れで進みます。

基本構想	→	基本計画	→	基本設計	→	実施設計	→	工事
基本的な考え方の整理 (1年)		設計に向けて条件等を明確化 (1年)		基本計画を図面化・具体化 (1年)		設計図書を作成 (1年)		(2~3年) ↓ 管理運営

従来手法においては、それぞれの段階ごとに予算化し、事業者を決定して進めるため、それぞれ1年程度の期間が必要となります。

設計以降、PPP手法を行うことで、効果的な財源低減方策や、効率的に事業期間を短縮できる可能性があることから、事業手法については、従来方式前提ではなく、PPP手法も含め、基本計画策定時までには検討します。

また、合わせて国等の交付金の活用も検討します。

### 【主な事業手法の概要】

事業手法	官民の役割分担					建設部分の契約形態
	資金調達	設計	建設	維持管理	運営	
従来方式	市	市	市	指定管理		請負契約
DB方式	市	民間事業者		指定管理		請負契約
DBO方式	市	民間事業者(指定管理を含む)				請負契約
BTO方式	民間事業者	民間事業者(指定管理を含む)				事業契約(※)

※事業契約とは、PFI事業において採用される契約方式。施設の設計・建設・維持管理・運営等に関する公共サービスの提供とその対価の支払い等を想定する。請負契約が事業の成果（建設された建物）に関する契約であるのに対し、事業契約は公共サービスに関する契約となる。

## 第6章 基本構想策定に向けて

### 1 方向性

現代の文化芸術活動は、人が集い、展示発表の場を必要とした従来の文化芸術活動に加え、インターネットやスマートフォンの急速な普及、新型コロナウイルス感染症の出現による社会変容などを踏まえた、デジタル技術を活用した新たな手法による文化芸術活動が展開されていますが、現文化会館の設備では、対応に限界があります。

現状の建物においては、舞台面積の狭小などの環境整備が求められています。また、本館にエレベーターはなく、東館にも乗員用が1基設置されているのみであるなど、文化芸術活動を行う高齢者や障がいのある方の利用に支障があります。また、ハード面だけでなく、ソフト面でもユニバーサルデザインの考え方による使用や運営方法に対応していくことが望まれています。

これらのことから、未来の文化芸術活動を築いていくためには、時代の変化に対応した機能を持つ文化会館を新たな可能性の生まれる拠点として、「さまざまな人が集い、笑顔が生まれる施設」として建替えを行います。

多目的ホールや、音楽、演劇向けの設備を備えることで、市民の文化芸術における創造活動・発表を行う交流の場に加え、講演や学習、各種集会や式典の場として、単なる貸館としてだけでなく、多機能かつ柔軟な運営ができる施設を目指し、文化芸術を支える拠点とできるよう、敷地や建築費などの課題整理を図りながら基本構想を策定します。

### 2 施設整備にあたっての考え方

- (1)高砂市の人口動向に見合った規模で将来にわたって持続可能な施設とします。
- (2)市民の多様な文化芸術活動ニーズに対応した機能や、バリアフリーにも配慮した施設とします。
- (3)現行の稼働率の低さから、利用のしやすさ、多目的化を図るなどコストパフォーマンスの高い施設とします。
- (4)一過性のイベントだけではなく、日常的に利用してもらえる施設とします。
- (5)同時期の病院建設や今後の教育施設の動向など公共施設全体の観点からできるだけ財政負担が少ない施設とします。

### 3 基本構想策定のスケジュール（予定）

基本構想策定にあたって、策定段階から多様な媒体を活用した丁寧かつ、積極的な情報提供を行うとともに、第5章の「基本的事項」を基に市民や団体などへのアンケート調査等の開催などによる、幅広い世代の意見聴取を十分に行うなど、市民等のニーズ把握を丁寧に進めながら基本構想を策定します。

また、既存施設の入居者や指定管理者、文化団体などの利用者の実情や意向も踏まえつつ、既存施設の稼働期間など、できる限り柔軟に対応を行い、関係者の合意形成に努めます。

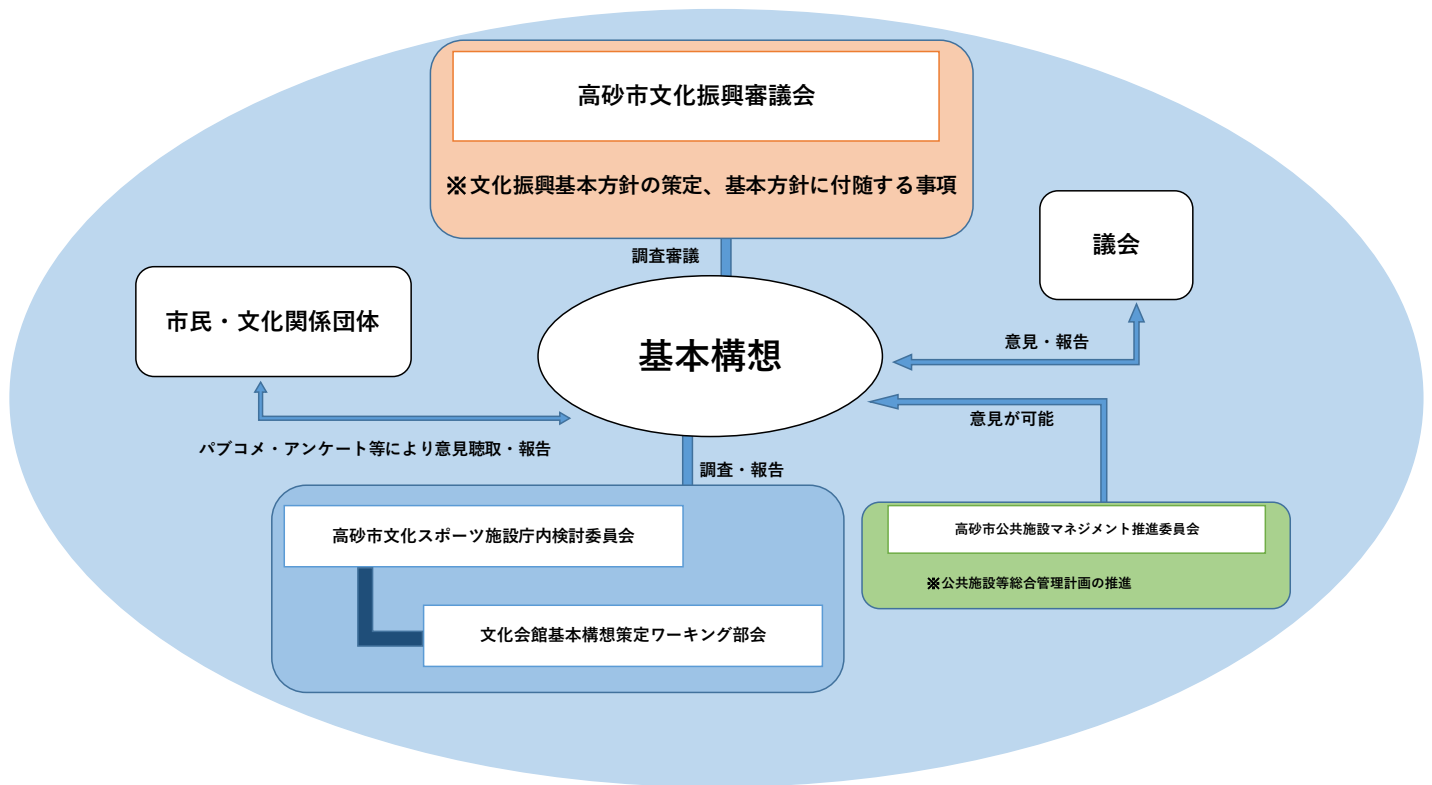
具体的には以下のスケジュールを予定しています。

令和8年6月頃～	市民・利用者アンケート実施 文化団体等ヒアリング実施・ワークショップ実施 審議会で意見聴取
9月	基本構想案（骨子）
12月	基本構想案（素案）
令和9年1月	パブリックコメント実施
2月	審議会で意見聴取
3月	基本構想策定

#### 基本構想（イメージ案）

第1章 基本構想策定の趣旨 第2章 文化会館の現状と課題 第3章 文化施設を取り巻く状況 (1) 国・県の法令、計画、施策 (2) 市の上位・関連計画、施策 (3) 近隣文化施設の設置状況 (4) 市外文化施設の再整備事例 第4章 ニーズ調査 (1) 市民アンケート結果 (2) 利用者・来場者調査結果 (3) 文化団体等ヒアリング結果 (4) ワークショップ結果 第5章 需要予測 (1) 各種状況調査等 (2) マーケット動向調査	第6章 新たな文化施設の整備に向けて (1) 目指すべき姿 (2) 基本理念 (3) 新たな文化施設の役割と担う機能 (4) 整備すべき主たる施設機能 (5) 建設地に求められる要件 (6) 概算事業費 第7章 整備手法 (1) 整備手法の整理・分析 (2) 整備スケジュール比較 (3) 管理運営手法、財源の活用可能性 第8章 基本計画策定に向けた課題事項 (1) 課題事項の整理 第9章 その他
---	--

## 【基本構想策定に向けた検討体制】



## 参考 事業スケジュール（案）

		令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12年度 (2030年度)	令和13年度 (2031年度)	令和14年度 (2032年度)	令和15年度 (2033年度)
旧施設	解体工事					■				
新施設	基本構想		■	■	■	■				
	基本計画			■	■	■				
	基本・実施設計				■	■	■	■		
	建設工事						■	■	■	■

※スケジュールはおおよその目安であり、事業の進捗状況等により変更が生じる可能性があります。

高砂市文化会館のあり方  
令和8年3月

---

高砂市  
健康こども部健康文化室文化スポーツ課